

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：食物栄養学科

資格：教授

氏名：内藤 義彦

研究分野	研究内容のキーワード
公衆衛生、予防医学、運動疫学	ヘルスプロモーション、疫学、健康管理、身体活動、栄養指導
学位	最終学歴
博士（医学）	大阪大学 医学部 医学科 卒業

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
1. 管理栄養士講座 三訂 公衆衛生学	2014年4月25日	建帛社
2. これからの公衆衛生学 社会・環境と健康（改訂第2版）	2013年4月15日	南江堂
3. これからの公衆衛生学—社会・環境と健康	2010年02月	南江堂
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 医師免許	1980年06月	
2. 日医認定健康スポーツ医		
3. 日医認定産業医		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 有患者のための運動療法・健康運動支援マニュアル（簡易版）	共	2016年2月	大和印刷	日本医療研究開発機構研究費循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化事業「身体活動・不活動量、運動量の実態とその変化が生活習慣病発症に及ぼす影響と運動介入支援の基盤構築に関する研究」班による。
2. 管理栄養士講座 三訂 公衆衛生学	共	2014年4月25日	建帛社（東京）	教科書
3. 新しい公衆衛生学 社会・環境と健康	共	2013年	南江堂（東京）	教科書
4. 身体活動・運動と生活習慣病：運動生理学と最新の予防・治療	共	2009年	日本臨床 増刊号（通巻954号）	身体活動量の測定法 質問紙。内藤義彦, 日本臨床増刊号（通巻954号）、143-148、2009.
5. 健康と運動の疫学入門—エビデンスに基づくヘルスプロモーションの展開	共	2008年09月	医学出版	熊谷秋三、田中喜代次、藤井宣晴、澤田亨（編集委員）
6. 地域における循環器疾患の疫学研究と予防対策の発展—秋田・大阪における40年のあゆみ	共	2007年	財）日本公衆衛生協会	小町喜男、嶋本 喬、飯田 稔、内藤義彦、他
7. 循環器疾患コホート研究の手引き	共	2004年03月	メジカルビュー	上島弘嗣、小澤利男編集
8. 保健指導マニュアル作成検討会報告（身体活動・運動）	共	2002年03月	厚生労働省健康局	下光輝一編集
9. 21世紀における府民の健康づくり運動—運動・身体活動マニュアル	単	2002年03月	大阪府健康福祉部	
10. 動脈硬化・老年病予防健診マニュアル	共	2001年	メジカルビュー社	上島弘嗣、小澤利男編集
11. 健康日本21推進ガイドライン	共	2001年	ぎょうせい	多田羅浩三編集

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
3 学術論文				
1. Influence of insulin resistance on the association between physical activity and heart rate variability: the Toon Health Study	共	2020年8月1日採択	Journal of Physical Activity & Health	
2. 若年女性のロコモティブシンドロームの実際ーロコモ度テストの結果と身体特性および食習慣・生活習慣との関連ー	共	2019年6月28日採択	健康支援、第21巻2号179-185, 2019	若年女性222名を対象にロコモへのリスクと身体特性および生活習慣との関連を明らかにするため、ロコモ度テスト、身体計測および生活習慣に関する質問票調査を実施した。その結果、ロコモへのリスクが高いと判定される者を多く認め、そのリスクの要因として、身体特性が強く関連し、また、その関連を媒介する要因として、身体活動および食習慣を含む生活習慣との関連が大きいと示唆された。従って、ロコモに対する教育は、高齢者だけでなく、大学生などの若年期から必要である。
3. Mortality of Japanese Olympic athletes: 1952-2017 cohort study	共	2019年10月22日採択	BMJ Open Sport & Exercise Medicine 2019;5:e000653. doi:10.1136	Taro Takeuchi, Yuri Kitamura, Junya Sado, Satoshi Hattori, Yumiko Kanemura, Yoshihiko Naito, Kohei Nakajima, Toru Okuwaki, Ken Nakata, Takashi Kawahara, Tomotaka Sobue
4. Association of Total and Differential White Blood Cell Counts with Physical Energy Expenditure	共	2017年2月8日	J Tokyo Wom Med Univ, 87 (Extra 2), E207~E216	Juniko OYA, Tomoko NAKAGAMI, Yoshihiko NAITO, Yasuhiro ENDO, Yasuko UCHIGATA
5. 地方自治体における児童の「早寝早起き朝ごはん」と食習慣・生活習慣との関連ー学校クラスター化でみた検討ー	共	2017年	日本食育学会誌、第11巻、第2号、pp. 191-196	赤利吉弘、内藤義彦
6. 心疾患予防における運動・スポーツの意義	単	2016年2月	月刊心臓	2016年2月号 Vol. 48 No. 2、特集：スポーツの循環器疾患
7. 小学校高学年の児童における間食頻度と生活習慣・食生活との関連	共	2016年	日本食育学会誌、第10巻、第1号、pp. 17-21	赤利吉弘、内藤義彦
8. 三軸加速度センサー内臓活動量計を用いた身体活動量、座位行動の調査と身体活動疫学研究への応用(査読付き)	共	2015年5月	運動疫学研究	熊谷秋三、田中茂穂、岸本裕歩、内藤義彦
9. 成人における年代別・性別に見た共食頻度と生活習慣、社会参加および精神的健康状態との関連	共	2015年	栄養学雑誌、vol173, No. 6, pp. 243-252	赤利吉弘、小林知未、小林千鶴、植杉優一、内藤義彦
10. 「非感染性疾患予防：身体活動への有効な投資」日本語版の紹介	共	2013年3月	運動疫学研究、15巻、1号、21-30	岡 浩一郎、井上 茂、柴田 愛、江川 賢一、鎌田 真光、澤田 亨、志村 広子、内藤義彦
11. 日本動脈硬化縦断研究 (JALS) の紹介	単	2012年4月	運動疫学研究、6巻、456 ? 461、2012	
12. 運動とは何かー地域における健康づくりの方向転換	単	2012年	公衆衛生、76巻、456 ? 461	
13. 身体活動のトロント憲章日本語版：世界規模での行動の呼びかけ	共	2011年06月	運動疫学研究	井上 茂、岡 浩一郎、内藤義彦、他.
14. Sedentary Occupation, Its Validity and Risk for Colon Cancer	共	2011年	Med Science Sport Exercise, 43(5)、576、2011	
15. Use of Doubly Labeled Water to Validate a Physical Activity Questionnaire Developed for the Japanese Population.	共	2011年	Journal of Epidemiology	Kazuko Ishikawa-Takata, Yoshihiko Naito, Shigehiko Tanaka, et al.
16. 運動・身体活動と公衆衛生(23)「連載を終わるに当たって」	単	2010年3月	日本公衛誌、査読無し、312?315、2010	
17. 減量プログラムによる女性の食行動改善と減量効果との関連	共	2010年	栄養学雑誌、68(6)、378?387、2010.	宮崎 純子、西村 節子、内藤 義彦
18. Body Mass Index and Risk of Stroke and Myocardial Infarction in a Relatively Lean Population: Meta-Analysis of 16 Japanese Cohorts Using Individual Data	共	2010年	Circulation: Cardiovascular Quality and Outcomes, 3, 498-505、2010	Hiroshi Yatsuya, Hideaki Toyoshima, Yoshihiko Naito, et al.
19. 運動・身体活動と公衆衛生(19)「身体活動量をどう評価するか」	単	2009年11月	日本公衛誌56 (11)、811-817、2009	内藤義彦、日本公衛誌56 (11)、811-817、2009.
20. 15) 身体活動と肥満の関係は？(特集：運動療法の新展開)	単	2009年	肥満と糖尿病、6、799-800、2009	
21. Light-intensity activities are important for estimating physical activity	共	2009年	Eur J Appl Physiol, 105, 141-152、2009.	Yosuke Yamada, Yoshihiko Naito, Misaka Kimura, Shingo Oda et al.

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
ical activity energy expenditure using uniaxial and triaxial accelerometers.				
22. 運動・身体活動と公衆衛生(1)「公衆衛生分野において運動・身体活動をどう考えるか」	単	2008年3月	日本公衛誌、55(3)、186-188、2008.	
23. 運動・身体活動と公衆衛生(9)「新しい身体活動量ガイドライン」	単	2008年11月	日本公衛誌、査読無し、55(11)、786-790、2008.	
24. Japan Arteriosclerosis Longitudinal Study-Existing Cohorts Combine (JALS-ECC) -Rationale, Design, and Population Characteristics -	共	2008年10月	Circulation Journal	JALS Group
25. ドック受診者における年齢と身体活動量測定値による内臓脂肪面積の予測式	共	2008年06月	肥満研究	前田健次、北村明彦、岡田武夫、今野弘規、木山昌彦、松元清美、添田雅義、内藤義彦、佐藤眞一
26. Analysis of individual data on lipid, inflammatory and other markers in over 1.1 million participants in 104 prospective studies of cardiovascular diseases	共	2007年12月	Eur J Epidemiol	The Emerging Risk Factors Collaboration (member)
27. 集団を対象とした身体活動・運動量の評価	単	2007年04月	体育の科学	
28. 心理的健康の維持・増進のための望ましい生活習慣についての疫学研究	共	2007年04月	日本公衆衛生雑誌	大平哲也、中村知佳子、今野弘規、岡田武夫、北村明彦、木山昌彦、中川裕子、佐藤眞一、中村正和、内藤義彦、他
29. 実地医家による高血圧の一次予防の実施法 -実効ある運動指導の進めかた	単	2007年02月	Medical Practice	
30. 生活習慣指導のノウハウ効果的で効率的な生活習慣改善指導のために-運動指導のこつ	単	2004年04月	medicina	
31. 運動のすすめ-その4 Sedentary death syndrome (SeDS) 運動不足病の新しい展開	単	2004年03月	動脈硬化予防	
32. 生活習慣指導ノウハウ効果的で効率的な生活習慣改善のために「10. 運動指導のこつ」	単	2004年01月	medicina	
33. 公益信託日本動脈硬化予防研究基金による統合研究における身体活動研究の概要報告	共	2003年05月	運動疫学研究	内藤義彦、原田亜紀子、井上茂、北島顕典、荒尾孝
34. 運動のすすめ-その3 過激な運動は突然死を招く?	単	2003年04月	動脈硬化予防	
35. 生活習慣指導② 循環器疾患予防のための身体活動	共	2002年04月	EBMジャーナル	内藤義彦、原田亜紀子
36. 大規模コホート研究における身体活動量の把握について	単	2002年04月	運動疫学研究	
37. 運動のすすめ-その2 日常生活を活動的にするために	単	2002年	動脈硬化予防	
38. [特集] 現代の養生訓: 運動・身体活動改善のすすめ② 日常生活活動と健康	単	2002年	からだの科学	

その他

1. 学会ゲストスピーカー

1. 特別講演 1 : 身体活動指針2013の活用について 新指針を国民の間に普及させるために必要なこと	単	2013年9月22日	第68会日本体力医学会大会 (東京)	
2. 日本総合健診医学会第41回大会 (仙台)	単	2013年1月26日		コントラバシー 1 健康増進に役立つ運動は: 軽い運動の効果あり
3. 第10回日本抗加齢医学会総会 (京都)、2010.	単	2010年06月15日		社会的老化を防ぐ健康づくり活動の方向性: シンポジウム アンチエイジングを強める運動療法
4. 第15回日本心臓リハビリテーション学会学術集会		2009年07月		地域における動脈硬化性疾患の予防戦略の方向性と事業展開-東大阪市におけるモデル事業の経験より
5. 第11回運動疫学研究学会学術集会		2008年09月		メタボリックシンドロームに身体活動は有用か
6. 日本産業衛生学会近畿地方会 第56回近畿地方会総会		2008年05月		シンポジウム 「職場でのメタボリックシンドロームの把握と保健指導」 4. 「身体活動の効果とその評価」
7. 第66回日本公衆衛生学会		2007年10月		実効性のある保健指導を行うには何が必要か? -ラ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1. 学会ゲストスピーカー				
8. 第12回日本看護サミットおおさか		2007年09月		イフスタイルを評価し変容を促すツールの有用性を考えるー
9. 日本体育測定評価学会第5回大会		2006年04月		成果が見える地域・職域保健活動
10. the 8th Asian Federation of Sports Medicine Congress (Tokyo)		2005年05月		日本動脈硬化予防研究基金統合研究用身体活動量質問紙 (JALSPAQ) の開発およびベースライン調査結果からみた我が国の身体活動の現状 Development of a questionnaire to assess physical activity in the Japan Arteriosclerosis Longitudinal Study
2. 学会発表				
1. 女子大学における現在の健康課題と今後の健康管理の方向性	共	2017年11月	第55回全国大学保健管理研究集会	内藤義彦, 村井里美, 田中美智子
2. 大阪版健康・栄養調査の結果(第4報)~若い世代の栄養成分表示の参考割合について~	共	2017年10月15日	第76回日本公衆衛生学会総会	中村清美, 金山有希, 村田積美, 柴田雅子, 高井玲子, 江上ひとみ, 田中修, 谷口隆, 大西智美, 木山昌彦, 黒川通典, 佐藤眞一, 内藤義彦
3. ラダリング法を用いたWeb調査による女子大学生の食事選択動機に関する研究	共	2016年10月15日	第75回日本公衆衛生学会総会	中西尋子, 小林千鶴, 小林千鶴, 小林知未, 湊聡美, 植杉優一, 赤利吉弘, 内藤義彦
4. The Development of the Nutritional Assessment System Using Bar-code and Cooking Cards: The Validation Study	共	2012年09月	16th International Congress of Dietetics (ICD)	Yoshihiko Naito, Chizuru Kobayashi, Tomomi Kobayashi, Kyoko Tamefusa
5. Effects of Kinect Sports on Health Indices of Female University Students	共	2012年06月	the 4th International Congress on Physical Activity and Public Health (ICPAPH),	Yoshihiko Naito, Tomomi Kobayashi, Chizuru Kobayashi, Yoshihiro Akari, Mari Gotanda
6. Sedentary Occupation, Its Validity and Risk for Colon Cancer	共	2011年5月	ACSM Annual Meeting (Indianapolis, USA),	Yoshihiko Naito, Kazuko Takata, Shigeho Tanaka, et al.,
7. 9) Validation of physical activity questionnaire for the Japan Arteriosclerosis Longitudinal Study (JALSPAQ) and its implication	単	2010年06月	ICPAPH (Tronto, Canada), 査読無し、2010	Yoshihiko Naito, Kazuko Takata, Shigeho Tanaka, et al.
8. フードモデルとICタグを用いた新しい栄養指導ツールの有効性について	共	2007年11月	第54回栄養改善学会学術集会	加藤亮, 西尾久子, 内藤義彦
9. Efficacy of a New Nutrition Educational Tool Using Food Models and IC Tags	共	2007年11月	the 39th Conference of the Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health	Yoshihiko Naito, Makoto Kato
10. 地域における水中運動教室の効果について (第6報) -栄養教育の強化とその成果	共	2007年10月	第66回日本公衆衛生学会	内藤義彦, 加藤亮, 他
11. メタボリックシンドロームの改善を目的としたIT (メール支援) による介入効果の検	共	2007年10月	第66回日本公衆衛生学会	中村知佳子,
12. 地域の生活習慣病予防・改善のための行動変容プログラムにおける身体活動評価の重要性とその位置づけについて	共	2007年09月	第10回運動疫学研究会学術集会	加藤亮
13. 糖尿病予備軍への水中運動教室ー (第4報) 生活習慣の変化の評価方法	共	2006年10月	第65回公衆衛生学会総会	内藤義彦, 他
14. 頸部動脈硬化とメタボリックシンドロームの関連性についてー明日香村研究を基にしてー	共	2006年10月	第65回公衆衛生学会総会 (富山)	三宅耕三, 内藤義彦, 他
15. 緑茶飲用の糖代謝ー脂質代謝への影響、第65回公衆衛生学会総会 (富山)	共	2006年10月	第65回公衆衛生学会総会 (富山)	吹野 洋子, 内藤義彦, 他
16. 地域における水中運動教室の効果 (第3報) -医療費効果の検討	共	2006年10月	第65回公衆衛生学会総会 (富山)	森 國悦, 内藤義彦, 他
17. 都市における肥満および循環器疾患発症と若年期における定期的運動習慣との関連	共	2006年09月	第61回日本体力医学会大会 (神戸)	内藤義彦, 他
18. 地域における耐糖能異常を有する者に対する水中運動プログラムの効果 (無作為比較対照試験による検討)	共	2006年01月	第16回日本疫学会学術総会 (名古屋)	内藤義彦, 森國悦, 西尾久子, 吉井ひろみ, 木村由美子, 宮崎準子
19. 生活習慣改善と体脂肪の減少を重視した減量プログラムとその評価?第5報?	共	2005年11月	第52回日本栄養改善学会学術総会 (徳島市)	秦野昌美, 宮崎純子, 伯井朋子, 西村節子, 黒川通典, 永野明美, 内藤義彦, 佐藤眞一

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
20. 行動科学を用いた運動指導教材・講習会の効果に関する介入研究：講習会に関する報告	共	2005年09月	第64回公衆衛生学会総会（札幌）	小田切優子、井上茂、内藤義彦、川久保清、赤松利恵、武田富士美、大谷由美子、下光輝一
21. 行動科学を用いた運動指導教材・講習会の効果に関する介入研究：教材開発に関する報告、第64回公衆衛生学会総会（札幌）	共	2005年09月	第64回公衆衛生学会総会（札幌）	井上茂、小田切優子、下光輝一、川久保清、内藤義彦、大谷由美子
22. 糖尿病予備軍への水中運動教室－（第2報）仲間づくりから地域への広がり－	共	2005年09月	第64回公衆衛生学会総会（札幌）	吉井ひろみ、西尾久子、木村由美子、森國悦、佐藤拓代、宮崎準子、内藤義彦
23. 糖尿病予備軍への水中運動教室－（第1報）プログラム効果について－	共	2005年09月	第64回公衆衛生学会総会（札幌）	西尾久子、吉井ひろみ、木村由美子、森國悦、佐藤拓代、宮崎準子、内藤義彦
24. 健診結果からみたBMIと食事摂取内容、身体活動量との関連	共	2005年09月	第64回公衆衛生学会総会（札幌）	黒川通典、西村節子、伯井朋子、秦野昌美、宮崎純子、北村明彦、内藤義彦、佐藤眞一、村井幸子、嶋本喬
25. CT検査による内臓脂肪面積を推定するための身体計測指標の検討	共	2005年09月	第64回公衆衛生学会総会（札幌）	松元清美、岡田睦美、宇野充子、永野英子、今野弘規、木山昌彦、北村明彦、岡田武夫、佐藤眞一、内藤義彦、嶋本喬
26. External validity of a questionnaire for assessment of physical activity in multi-centered arteriosclerosis longitudinal study	共	2005年06月	52nd Annual Meeting of American College of Sports Medicine (Nashville)	oshihiko Naito、Akiko Harada、Shigeru、Inoue、Yoshinori Kitabatake、Takashi Arao、Hideaki Nakagawa、Hirotosugu Ueshima
27. 生活習慣改善と体脂肪の減少を重視した減量プログラムとその評価？第3報？	共	2004年10月	第51回日本栄養改善学会（金沢）	秦野昌美、内藤義彦、永野明美、伯井朋子、泉本裕子、黒川通典、北村明彦、佐藤眞一
28. 井上茂、小田切優子、川久保清、内藤義彦、大谷由美子、下光輝一：生活習慣改善指導者における「指導行動のステージ」評価に関する検討	共	2004年10月	第63回日本公衆衛生学会総会（松江）	井上茂、小田切優子、川久保清、内藤義彦、大谷由美子、下光輝一
29. 複数の勤労者集団から無作為抽出した対象における質問票より把握される身体活動量と歩数との関連に関する研究	共	2004年10月	日本体力医学会大会（さいたま）	内藤義彦、原田亜紀子、井上茂、北島義典、荒尾孝、岡村智教、田中太一郎、上島弘嗣、中川秀昭、三浦克之、柳田昌彦、中山健夫、内藤真理子、木下藤寿、藤枝賢晴
30. 生活習慣改善と体脂肪の減少を重視した減量プログラムとその評価？第4報？	共	2004年10月	第51回日本栄養改善学会（金沢）	永野明美、内藤義彦、秦野昌美、伯井朋子、泉本裕子、黒川通典、北村明彦、佐藤眞一
31. Physical activity and risk of cancer in a prospective cohort study (Japan)	共	2004年06月	52nd Annual Meeting of American College of Sports Medicine (Indianapolis)	Yoshihiko Naito、Hideaki Tukuma、Akira Oshima、Minoru Iida
3. 総説				
1. 運動疫学研究の基本 ～読み方、進め方、利用の仕方～	単	2014年7月25日	体力科学、Vol. 63 (2014) No. 4 p. 425-437	
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2018年6月1日～現在	和泉市健康推進計画検討委員会
2. 2016年6月1日～現在	交野市健康づくり推進委員会
3. 2015年7月1日～現在	神戸市食育推進懇話会委員
4. 2014年10月1日から2015年3月1日	平成26年度管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン）改訂検討会 構成員
5. 2013年8月23日～現在	管理栄養士国家試験委員
6. 2000年4月1日から2015年3月31日	運動疫学研究会 副理事長
7. ～現在	泉南市健康づくり推進協議会 委員
8. ～現在	摂津市健康づくり推進協議会 委員
9. ～現在	箕面市保健医療福祉総合審議会 委員
10. 2012年011月から2013年03月	厚生労働省 運動基準・指針の改定に関する検討会 構成員
11. ～現在	日本疫学会 評議員
12. ～現在	日本体力医学会 評議員

学会及び社会における活動等

年月日	事項
13. ～現在	日本循環器管理研究協議会 評議員
14. ～現在	西宮市健康増進計画策定委員会 委員長
15. ～現在	豊中市保健医療審議会 委員長
16. ～現在	西宮市食育推進会議 会長
17. ～現在	東大阪市民健康づくり推進協議会 会長
18. ～現在	豊中市国民健康保険運営協議会 会長
19. ～現在	寝屋川市食育推進会議 会長
20. ～2012年3月31日	大阪府健康増進計画改定検討委員